

第54回

「Face to Faceの会」たより

▶ 一般演題 I

新しい内視鏡センターオープン

大阪公立大学医学部附属病院

消化器内科 診療科部長 藤原 靖弘



2024年9月に拡張工事が終了し、新しい内視鏡センターがオープンしました。

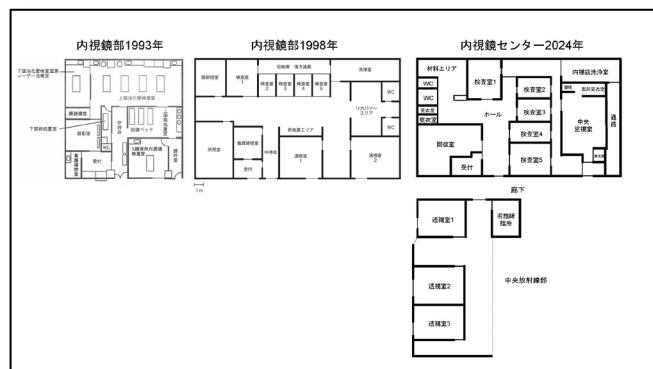
通常検査室5部屋と専用透視室3部屋、回復室、中央監視室などを有します(図)。以前の検査室や回復室は非常に狭かったですが、十分なスペースを確保できました。さらに天吊のモニターや室内灯色可変などの特徴を有しています。Cアームを備えた透視室3部屋は他施設にはみられないもので、増加する胆膵疾患や様々な感染症にも十分に対応できる形となりました。

現在、センターでは消化器内科、呼吸器内科、消化器外科、呼吸器外科の医師、看護師、診療放射線技師、臨床工学技士、受付、DA、清掃員といった多職種で24時対応しております。

当院の消化器内視鏡の歴史は古く、1959年に北館手術室で最初に胃カメラが行われました。以降、南館がんセンター、東館総合外来横検査室を経て1993年に中央部門として内視鏡部が開設されました。現在は、診断検査のみならず、様々な治療を行っています。

早期癌(咽頭、食道、胃、十二指腸、大腸)の粘膜下層剥離術をはじめ、GERDやアカラシアといった機能性疾患に対する内視鏡治療も行われています。胆膵疾患の分野における消化器内視鏡の発展は凄まじく、超音波内視鏡下生検、肝胃吻合術、仮性膵嚢胞ドレナージ術などが積極的に行われています。

消化器内視鏡を用いた治療はほぼ全て可能です。症例がございましたら、是非ご紹介頂けましたら対応させて頂きたく存じます。



▶ 一般演題Ⅱ

腎泌尿器疾患の最前線： 最新技術とその実践

大阪公立大学医学部附属病院

泌尿器科 診療科部長 内田 潤次



大阪公立大学泌尿器科は泌尿器がん、腎移植、透析医療や尿路結石、前立腺肥大症などの一般泌尿器疾患を含めた泌尿器科領域全般において、専門性と多様性を兼ね備えた高水準の診療を実践している。

中でも泌尿器がん治療においては、ロボット支援手術を積極的に導入し、前立腺がん、腎がん、膀胱がんを対象に1000例を超える手術実績を有しており、低侵襲で安全性に優れた先進的治療を提供している。特に、低侵襲で機能温存を重視した手術が可能となり、患者の早期回復と生活の質の向上に貢献している。また、MRIと超音波画像を融合して標的部位を狙う前立腺生検や、光感受性物質と特定波長の光を用いて腫瘍を可視化する光力学診断(PDD)など、診断精度を高める技術にも注力している。

更に、尿路結石に対しては内視鏡手術を駆使し、治療困難症例にも対応している。前立腺肥大症には身体への負担が少ない新しい手術法も導入し、高齢者や持病を抱える患者にも安全な治療を提供している。

腎不全医療では、生体腎移植および献腎移植は年間30件実施し、ともに良好な成績を維持している。透析患者の生命予後を左右するバスキュラーアクセス管理においても、最新デバイスと技術を活用している。腎不全外科として当科は西日本有数の基幹施設である。

大阪公立大学泌尿器科は、泌尿器科のcommon diseaseから高度専門医療まで、すべての領域において最先端かつ安全な医療をバランスよく提供し、地域医療と国際医療の架け橋となることを目指している。

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

大阪公立大学泌尿器科における泌尿器癌に対するロボット支援手術件数
2014年4月～2024年12月まで

- ・前立腺癌：ロボット支援前立腺全摘 695件
- ・腎癌：ロボット支援腎部分切除 627件
- ・膀胱癌：ロボット支援膀胱全摘 102件

泌尿器科は
1000例以上の
ロボット支援
手術を実施済

大阪公立大学泌尿器科では豊富な経験により
安全で高度なロボット支援手術の実施が可能

腎泌尿器疾患の最前線：最新技術とその実践 大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

大阪公立大学泌尿器科における最新技術とその実践

1. 泌尿器癌
2. 泌尿器領域common disease
3. 腎不全治療

© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved. 1

次回開催のお知らせ

今回の医療連携 Face to Faceの会は

令和7年7月12日(土) 16:00～

あべのハルカス25階 貸会議室 にて開催いたします。

発行：大阪公立大学医学部附属病院
「Face to Faceの会」事務局

文責：患者総合支援センター長
角南 貴司子(世話人代表)

連絡先：06-6645-2857(患者支援課)